



※1: 病理検査にてがん細胞が確認されることを基準としています。がん細胞が確認された気管支鏡細胞診検体の多くは、がん細胞の含有率が1%以上であったと報告されています。病理検査でがん細胞が確認できない検体は、本検査にて測定することができません。  
(Tanaka T et al. Reliability of the peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based test for epidermal growth factor receptor mutations integrated into the clinical practice for non-small cell lung cancers. *Cancer Science* 2007;98(2):246-252. doi:10.1111/j.1349-7006.2006.00377.x)

※2: RNA later™ Stabilization Solution(サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社)

監修: 萩原 弘一 先生 (自治医科大学)